

問 歩きたくなるまちづくりの推進は

答 ハード・ソフト両面で整備を進める



新政とうかい
まつえ ひであき 議員
松江 秀明

問 健康寿命の延伸や村民の幸福度向上に向け、既存施設の利活用や回遊性の向上、また新たなスポットの選定など、村全体で「歩きたくなる環境」をどう構築していくのか。

答 安全で快適な歩行空間を確保するために幹線道路の歩道再整備方針を策定する。幹線道路等の整備に合わせ、公園や豊かな自然環境を生かしたコースの検討を進め、スマホアプリの健康ポイント付与等の施策とも連動し、引き続きウォーキングの推奨、啓発に努める。

問 物理的な歩道整備

が困難な場所において、歩行者の安全を確保するための具体的な整備方針と村民が歩きたくなる動機づけや健康寿命延伸に向けた村の考えを具体的に伺う。

答 生活道路は歩道整備が困難な路線が多いため、デジタル技術の活用について調査・研究する。ウォーキングの継続は環境要因が大きく左右するため、新しいルート整備や他のイベントとの連携を図りながら、運動習慣の定着に向けて取り組んでいく。



季節の風を感じる細浦の村道

問 介護施設誘致の方向性は

答 誘致に向けて地域ニーズを把握



新政とうかい
みかみ おさむ 議員
三上 修

問 本村でも介護施設利用者の施設探しが難航し、入所待ちや近隣市の施設に入所するケースが散見される。地域に根差した介護事業者の誘致は喫緊の課題。本村に開業を希望する介護事業者の動向および介護施設誘致の方向性は。

答 地域に根差した介護事業所の必要性を認識して、令和6年度に、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）および小規模多機能型居宅介護（通い、泊まり、訪問を一つの事業所で受けられる介護保険サービス）を提

供する事業者を公募したが、応募に至っていない。

問 介護施設誘致のために、村有地のさらなる開放や土地利用条件の部分的な拡大が必要と考えるが見解は。

答 介護施設誘致のために村有地を提供するなどの土地利用計画は現在のところないが、村民に必要なサービスが適切に整備されるよう、地域ニーズを的確に把握するとともに、引き続き事業者参入の動向を見守る。



須和間地内の村有地（南台保育所跡地）